11 月のおたより

「梅雨入りや 無償の愛のなき世にて『ひきこもり』とは 見下す言葉」

2019 年に朝日歌壇に投稿（広田亜衣）された短歌で、山形市の田中さんはこの歌を繰り返し読み返しています。

田中さんは、山形市でひきこもらざるを得ない子どもをもつ家族会 「かたばみの会」を立ち上げ、当事者や家族への支援を市に働きかけ、「山形市ひと休みびと支援条例」の制定に尽力。つらいときは「休んでいいよ」 と言い合える社会をめざして活動しています。

田中さんはあるとき、はっと気づいたといいます。

「親である私は、自分の辛さのことしか考えていなかった。世間から隠れて子どもを恥として生きてきた。 でも、いちばん辛いのは、この真っ暗な部屋に閉じこもって、親の一挙手一投足にびくびくしながらでしか生きていけない、この子だ」

「ひきこもり」という言葉には「甘え」「怠け」といった偏見がつきまとい、親自身も 「家の恥、他の人には知られたくない」と、社会から身を潜めてしまう姿があります。その「ひきこもり」という呼称への違和感を端的に表していると感じ、幾度も読み返すのがこの歌でした。

「8050」に象徴される、すでに高齢になった親御さんの多くが、本人の意思や状況に応じて、安心して暮らせる社会の実現を願い、「世間」という岩盤と闘っています。その第一歩は、呼称としての「ひきこもり」をなくすことです。

（田中さんの活動は近刊 SHIP!秋号⑦に紹介されています）　（K）

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

11 月の家族教室ご案内

・日時：11 月 29 日（日）13：30～　（入場無料　16：00 終了予定）

・会場：あわの風「open 暖話室」（館山市北条 1170-3）

テーマ：「ひきこもり家族会23年の歴史を振り返って」

子を救えるのは親しかいない、無条件の役割

【講師】藤江　幹子 先生

＜講師プロフィール＞

一般社団法人SCSカウンセリング研究所シニア・カウンセラー、認定心理士、NPO法人千葉なの花会理事長（NPO法人あわの風 副理事長）／元私立中学高校スクールカウンセラー

(共著)新.困った子ほどすばらしい【ﾊｰﾄ出版】

はじめて家族会に参加される方は、あらかじめ下記へお申し出ください。参加は無料です。

＜お問合せ先＞ 〒294-0045 千葉県館山市北条 1170-3　ＮPO 法人あわの風 代表:加藤　峰生

☎0470-29-3840　携帯 090-2335-1338　e-mail : contact@awanokaze.org